

感謝の気持ちの表現の仕方

日々の生活の中で、感謝の思いをどのように相手へ届けているでしょうか。言葉で伝えることは基本ですが、それ以外にも工夫はできます。ここでは三つの視点から考えてみましょう。

一つ目は、文字にして伝えることです。短い一文でも、自分の手で書いたカードやメモには、気持ちがよりはつきりと表れ、相手の心に残ります。

二つ目は、態度で示すことです。相手の話を遮らず、最後まで向き合って聞く姿勢は、「大切に思っています」という無言のメッセージになります。三つ目は、行動で返すことです。助けてもらうた経験を、別の場面で誰かに渡すことで、思いは広がっていきます。

感謝は形を変えて伝えることができます。自分

に合った方法を見つけていきましょう。

今日の言葉 思いは行動で深まる。

学校現場では、忙しさの中で気持ちを伝える機会を逃してしまうこともあります。しかし、ほんの一歩踏み出すことで、人との関係は大きく変わります。

声をかける、耳を傾ける、さりげなく支える。その行動は相手を喜ばせるだけでなく、行った自分の心をも満たします。

実際には、与えた以上の温かさを受け取っていることに気づく場面も多いでしょう。こうした積み重ねは、職場の雰囲気を和らげ、信頼を育てます。

教職員が日常の中で小さな親切を重ねる姿は、周囲に安心感を広げ、子どもたちにも自然と伝わっていきます。特別な行動でなくても構いません。続けられる関わりこそが、心の余裕を生み、豊かな人間関係と充実した毎日につながっていくのです。



【今回の学び】⇒感謝の気持ちを表現できる大人へと成長させたい！